

1	.	1		私	が	携	わ	っ	た	シ	ス	テ	ム	開	発	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴					
				私	は	、	京	都	の	ス	ー	パ	ー	マ	ー	ケ	ツ	ト	向	け	計	量	器	や	ア	プ	リ		
				ケ	ー	シ	ョ	ン	を	製	造	す	る	メ	ー	カ	の	S	E	部	門	に	所	属	し	て	い	る	
				競	合	激	化	す	る	流	通	業	に	お	い	て	、	作	業	の	省	力	化	に	つ	な	が	る	
				様	々	な	シ	ス	テ	ム	化	の	ニ	ー	ズ	へ	の	対	応	を	行	っ	て	い	る	。			
				当	社	の	売	れ	筋	商	品	の	う	ち	の	1	つ	の	今	か	ら	約	1	0	年	前	に		
				開	発	さ	れ	た	P	O	P	シ	ス	テ	ム	に	お	い	て	、	様	々	な	顧	客	要	望	の	
				統	合	、	最	新	の	開	発	技	術	・	O	S	へ	の	対	応	を	行	う	た	め	、	新	P	
				O	P	シ	ス	テ	ム	を	新	規	開	発	す	る	こ	と	と	な	っ	た	。	本	開	発	プ	ロ	
				ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴	と	し	て	、	下	記	の	4	点	が	挙	げ	ら	れ	る	。			
				①	.	市	場	へ	の	導	入	数	が	千	本	以	上	で	、	既	存	機	能	か	ら	の	大		
								き	な	仕	様	変	更	を	行	う	と	、	混	乱	を	招	く	可	能	性	が	あ	る
								こ	と																				
				②	.	ノ	ウ	ハ	ウ	の	流	出	を	防	ぐ	た	め	、	社	内	S	E	で	の	開	発	範		
								囲	と	、	外	注	P	G	開	発	業	者	へ	の	請	負	契	約	を	行	う	こ	と
				③	.	再	開	発	に	か	か	る	開	発	費	を	5	千	万	円	以	内	と	す	る	こ	と		

④	.	新	O	S	対	応	の	た	め	着	手	後	半	年	で	開	発	完	了	す	る	こ	と		
1	.	2		特	徴	を	踏	ま	え	た	品	質	目	標											
		私	は	,	本	開	発	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	マ	ネ	ー	ジ	ャ	と	し	て	,	下	記	の
		品	質	目	標	を	設	定	し	た	。														
		①	.	既	存	製	品	と	同	等	の	動	作	や	仕	様	が	1	0	0	%	網	羅	さ	れ
				て	い	る	こ	と																	
		②	.	流	通	業	で	の	価	格	表	示	業	務	と	直	結	す	る	た	め	,	代	替	手
				段	を	講	じ	て	店	舗	で	の	P	O	P	作	業	を	実	施	出	来	る	こ	と
		③	.	開	発	完	了	時	点	で	,	既	知	不	具	合	が	0	件	で	あ	る	こ	と	
		④	.	外	注	業	者	か	ら	の	成	果	物	受	入	基	準	を	明	確	に	す	る	こ	と

2	.	1		品	質	目	標	の	達	成	を	阻	害	す	る	要	因	と	判	断	の	根	拠						
				私	は	、	本	開	発	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	に	お	い	て	、	品	質	目	標	達	成	を		
				阻	害	す	る	要	因	と	し	て	洗	い	出	し	た	。	要	因	と	判	断	し	た	根	拠	と	
				合	わ	せ	て	列	挙	す	る	。																	
①	約	1	0	年	間	で	様	々	な	担	当	者	が	カ	ス	タ	マ	イ	ズ	対	応	し	て	い					
				る	こ	と	や	開	発	当	時	の	資	料	記	述	レ	ベ	ル	が	低	い	た	め	、	既	存	版	
				の	仕	様	理	解	が	浅	く	な	る	可	能	性	が	あ	る	。	判	断	し	た	根	拠	と	し	
				て	、	納	品	済	み	顧	客	か	ら	の	問	合	せ	が	日	々	1	0	件	程	度	発	生	し	、
				仕	様	確	認	や	仕	様	回	答	ま	で	に	時	間	が	掛	か	っ	て	い	る	。				
②	P	O	P	シ	ス	テ	ム	に	は	、	特	売	な	ど	の	デ	ー	タ	の	取	扱	い	だ	け					
				で	な	く	、	文	字	や	画	像	の	デ	ザ	イ	ン	性	、	フ	ォ	ン	ト	、	印	刷	制	御	
				な	ど	幅	広	い	開	発	知	識	や	業	務	知	識	が	必	要	な	も	の	の	、	全	て	の	
				知	識	を	有	し	た	担	当	者	が	存	在	し	な	い	た	め	、	P	G	開	発	完	了	時	
				の	評	価	に	て	不	具	合	の	切	り	分	け	や	修	正	作	業	が	遅	延	す	る	可	能	
				性	が	あ	る	。	判	断	し	た	根	拠	と	し	て	、	既	存	版	の	問	合	せ	時	の	発	
				生	源	や	原	因	特	定	作	業	時	に	担	当	者	間	で	も	め	事	が	生	じ	る	こ	と	

が	あ	る	た	め	で	あ	る	。																
③	P	O	P	シ	ス	テ	ム	で	は	、	文	字	描	画	や	配	置	な	ど	様	々	な	専	門
知	識	が	必	要	と	な	る	た	め	、	経	験	を	有	す	る	外	注	業	者	で	し	か	開
発	対	応	し	辛	い	。	長	年	の	付	き	合	い	の	た	め	、	当	社	と	外	注	業	者
間	の	成	果	物	受	入	が	甘	く	障	害	発	生	都	度	修	正	対	応	し	て	い	る	状
況	が	見	受	け	ら	れ	、	新	規	開	発	時	に	も	品	質	面	で	開	発	工	程	に	影
響	が	出	る	可	能	性	が	あ	る	。	判	断	し	た	理	由	と	し	て	、	直	近	で	実
施	し	た	開	発	に	お	い	て	、	P	G	品	質	面	の	影	響	に	よ	り	納	期	遅	延
し	た	事	例	が	あ	っ	た	た	め	で	あ	る	。											
2	.	2		品	質	目	標	達	成	阻	害	要	因	に	対	す	る	品	質	確	保	策		
	私	は	、	本	開	発	に	お	け	る	品	質	目	標	を	達	成	し	、	ま	た	予	算	・
納	期	を	遵	守	す	る	た	め	、	下	記	の	品	質	確	保	策	を	立	案	し	た	。	
①	既	存	で	稼	働	し	て	い	る	シ	ス	テ	ム	の	仕	様	を	正	し	く	か	つ	正	確
に	理	解	す	る	た	め	、	開	発	部	門	で	有	す	る	資	料	だ	け	で	な	く	営	業
部	門	や	保	守	部	門	で	保	有	し	て	い	る	資	料	な	ど	を	調	達	・	受	領	出

来	る	よ	う	S	E	上	位	管	理	者	か	ら	関	連	部	署	長	を	通	じ	て	協	力	を
要	請	し	た	。	ま	た	、	仕	様	確	認	や	開	発	を	進	め	る	過	程	で	、	現	在
他	案	件	を	担	当	し	て	い	る	前	任	者	へ	の	確	認	や	打	合	せ	が	出	来	る
よ	う	調	整	す	る	こ	と	で	、	品	質	確	保	に	必	要	な	情	報	を	得	ら	れ	る
よ	う	に	し	た	。																			
②	開	発	作	業	時	に	、	週	次	で	ミ	ー	テ	ィ	ン	グ	を	開	催	す	る	こ	と	で
各	担	当	者	の	開	発	知	識	や	業	務	知	識	の	レ	ベ	ル	が	異	な	っ	て	い	て
も	、	ミ	ー	テ	ィ	ン	グ	の	場	で	情	報	共	有	や	課	題	解	決	す	る	こ	と	で
開	発	時	点	で	の	品	質	の	作	り	込	み	に	つ	な	が	る	よ	う	ル	ー	ル	化	し
た	。																							
③	外	注	業	者	へ	の	開	発	委	託	に	お	い	て	、	不	具	合	が	発	生	し	が	ち
な	例	外	系	・	異	常	系	・	性	能	系	・	運	用	系	の	観	点	で	の	テ	ス	ト	仕
様	書	を	当	社	で	事	前	に	作	成	し	、	外	注	業	者	で	の	開	発	及	び	検	証
時	に	使	用	す	る	よ	う	依	頼	し	た	。												

3	.	1	品質確保策の作成における工夫																	
			本 P O P システム開発において開発予算が 5 千万円であ																	
			ることを考慮して、開発着手前後に開発メンバーだけで																	
			なく商談・納品・保守に関わるメンバーにてレビュー																	
			会を開催すること、開発後工程にて必須の機能追加が生																	
			じることで予算超過するリスクを軽減した。																	
			本 P O P システム開発において開発納期が着手後 6 ヶ																	
			月間であることを考慮して、外注業者への P G 開発依頼																	
			は請負契約であるものの、別途契約を締結し開発進捗の																	
			定期的な報告と、中間成果物を納品するようにさせた。																	
			3	.	2	品質確保策の作成における工夫の結果への評価														
						私は、本開発プロジェクトへの品質確保策の作成に際														
						し工夫した結果としての評価は、下記の通りである。														
						① レビュー会を通じて、開発メンバーが保持していない														
						機能や運用に関する情報が得られ、開発時点の資料レベ														

ル	が	低	い	も	の	の	、	仕	様	継	承	漏	れ	や	予	期	せ	ぬ	費	用	支	出	を	抑	
制	す	る	こ	と	が	出	来	、	結	果	と	し	て	開	発	予	算	以	内	の	4	千	8	百	
万	円	に	て	開	発	完	了	さ	せ	る	こ	と	が	出	来	た	。								
②	外	注	業	者	の	中	間	成	果	物	を	確	認	す	る	こ	と	で	、	2	度	の	開	発	
遅	延	傾	向	が	確	認	さ	れ	た	も	の	の	、	開	発	に	必	要	と	な	る	仕	様	が	
十	分	に	伝	え	き	れ	て	い	な	い	こ	と	に	起	因	し	て	い	た	た	め	、	外	注	
業	者	と	の	集	中	的	な	打	合	せ	の	実	施	に	て	遅	延	を	回	復	す	る	こ	と	
が	出	来	た	。																					
③	開	発	全	般	を	通	し	て	、	P	O	P	シ	ス	テ	ム	開	発	に	は	開	発	知	識	
や	業	務	知	識	が	必	要	で	あ	っ	た	も	の	の	、	実	開	発	を	行	う	メ	ン	バ	
一	の	メ	ン	バ	一	間	・	他	部	署	メ	ン	バ	一	と	の	折	衝	や	コ	ミ	ュ	ニ	ケ	
一	シ	ョ	ン	能	力	や	コ	ミ	ュ	ニ	ケ	一	シ	ョ	ン	方	法	が	十	分	で	な	い	た	
め	、	結	果	的	に	思	い	込	み	や	決	め	付	け	で	様	々	な	開	発	を	行	っ	て	
い	た	事	例	も	確	認	さ	れ	た	。	そ	れ	ら	の	行	為	は	品	質	低	下	の	要	因	
に	な	る	だ	け	で	な	く	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	失	敗	へ	の	引	き	金	と	な	り	
う	る	可	能	性	も	あ	る	た	め	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	振	り	返	り	ミ	ー	テ	

氏名：

問：平成23年度 問2 設問ウ

3/3

イ	ン	グ	に	お	い	て	、	開	発	メ	ン	バ	ー	に	対	し	て	よ	い	気	付	き	を	与
え	、	ま	た	よ	い	経	験	に	つ	な	が	っ	た	と	考	え	て	い	る	。				

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

— 以 上 —

論文添削結果（クイック）

2013.03.06 みんなのS E創研
添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：●●●●

問題：平成23年度 問2

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

なおクイック添削は短時間で添削を行うことから、添削結果での指摘の漏れが発生する可能性がございます。通常の添削結果に比べて精度にばらつきが発生しやすい点につきましてはご了承をお願い致します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの特徴
 1. 1 プロジェクトの特徴
 1. 2 プロジェクトの特徴を踏まえて設定された品質目標
2. 品質目標の達成のための品質計画
 2. 1 品質目標の達成を阻害する要因と判断した根拠
 2. 2 要因に応じて品質計画に含めた品質確保策
3. プロジェクト制約を考慮した工夫
 3. 1 プロジェクト制約に応じた品質計画上の工夫
 3. 2 工夫した結果の評価

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、「1. 論文見出し構成の例」に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの概要について端的に述べられていること。 ②プロジェクトの特徴について今後の論述の布石になるような内容を適切に述べていること ⇒むしろ論述に関係しない内容は述べないほうが望ましい。また3.1節で、プロジェクト制約を踏まえた工夫を述べる必要があるので、事前にプロジェクト制約（予算や納期）について触れておくこと。	1.1節では、1.2節と3.1節に関連する内容を記載する。他の設問とのつながりを意識して論述を行う必要がある。 また1.2節で述べたプロジェクト品質目標は、3.2節で評価の対象となる。
1. 2	①プロジェクトの特徴を踏まえて設定された品質目標を述べていること。 ⇒プロジェクトの特徴に関連した品質目標であること。また自分勝手に設定した品質目標ではいけない。プロジェクトの特徴を踏まえることで、品質目標はおのずと設定される。 ②品質目標は具体的な内容であること。 ⇒具体的な数値目標にまで落とし込まれた品質目標を述べること。	
2. 1	①プロジェクトの計画策定段階において判断した要因であること。 ⇒プロジェクト計画段階の論述である。プロジェクト実行後に察知した品質目標の阻害要因を述べてはいけない。 ②品質目標の達成を阻害すると判断した根拠について明確に述べられていること。 ⇒プロマネの視点から、品質目標の達成が阻害される根拠を述べる。	
2. 2	①阻害要因への対策（品質確保策）が具体的に述べられていること。 ②阻害要因への対策（品質確保策）が有効である理由が述べられていること。 ⇒効果のある有効な対策であることが客観的に判断できること。 ③品質確保策は、品質計画に盛り込む内容であること。 ⇒プロジェクト計画段階の論述であること。また単なる対策ではなく、対策によって品質確保ができる対策であること。	

3. 1	<p>①1.1節で述べたプロジェクト制約が、どのように品質計画に影響を与えるかを述べていること。 ⇒予算が少ない、納期が短い、といった制約が、品質計画の実行にどのような影響を与えるかをプロマネの視点から分析していること。</p> <p>②プロジェクト制約を守りつつ品質確保をするための工夫を具体的に述べること。 ⇒プロジェクト制約を変えたり、制約を取り払ったりする論述ではなく、制約と品質確保を両方実現できる工夫であること。</p> <p>③工夫を行うことでプロジェクト制約と品質確保の両方を満足できる理由が明確に述べられていること。</p>	
3. 2	<p>①工夫した結果の顛末について具体的かつ簡潔に述べること。 ⇒品質目標の達成度合いを述べること。</p> <p>②結果についてプロマネの客観的な評価と、改善点・反省点などを述べること。 ⇒工夫に対して一定の評価ができる、といったニュアンスで述べること。</p>	

本問題は頻出の品質管理がテーマで、また今までの出題観点と大きく異なるところもありませんので、対応はしやすいかと思います。

論述の自由度も高いですが、設問ウにて、設問イの対策を行う中で、予算や納期といった制約も満足するための工夫を問われています。品質と、予算・納期のトレードオフを扱う問題ですが、品質を犠牲にしない形で工夫した点を述べる必要があります。

上記以外にも、設問間のつながりを意識しなければならない箇所がありますので、以下に記載します。この内容を把握できていれば、比較的対応は容易な問題です。

- ・ 1. 1節 : プロジェクトの特徴の論述 ⇒ 1. 2節でプロジェクト特徴を踏まえた品質目標を述べる必要あり。
- プロジェクトの制約の論述 ⇒ 3. 1節でプロジェクトの制約（予算・納期）を満足するために行った工夫を述べる必要あり。
- ・ 1. 2節 : 品質目標の論述 ⇒ 3. 2節の評価で、品質目標の達成度合いの評価を述べる必要あり。
- ・ 2. 1節 : 品質目標の達成を阻害する要因の論述 ⇒ 2. 2節で要因に対応した対策を述べる必要あり。

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
C	内容が不十分である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	C	内容が不十分
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること 	B	合格水準にあと一步
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること 	B	合格水準にあと一步
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> ・論文としてふさわしい文章表現であること ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと 	B	合格水準にあと一步

4. 講評

添削者が考える講評について示します。なお頂いた論文に赤字でコメントを入れておりますので（コメントは本添削結果の末尾に添付）、講評と合わせてご確認頂けますと幸いです。

設問アの1. 1節ではシステムの概要などの題意に関連しない論述が多かったので、簡潔に述べる必要がございます。また、プロジェクトの特徴の論述は、プロジェクトに関する事実が述べられているだけ（例：開発予算や規模について）であり、その事実がプロジェクトに与える影響についての論述が述べられていませんでした。その事実がプロジェクトへ与えている影響を述べることで、プロジェクトの特徴面の論述になると考えます。この点を述べることでより題意に即した論述になると考えます。1. 2節では、品質目標として妥当ではない内容が述べられておりました。品質目標とは具体的にどのようなものなのかを把握された上で、適切な指標に修正することが必要だと考えます。

設問イの2. 1節では、プロマネが問題と考えた事象と、品質目標との関連が読み取りにくいと考えます。その問題が発生すると、どの品質目標に対してどういった影響が及ぶのか、といった分析の論述が不足しておりました。この点は必須の論述観点だと考えますので、追記をして頂きたいと思います。2. 2節では、2. 1節で述べた問題に対して効果的だと認識しにくい対策が述べられている箇所がございました。論述内容があまり具体的ではなかったために、効果が読み取りにくくなっていると考えます。

設問ウの3. 1節では、論述すべき題意の把握が誤っておりました。本来は、品質保証計画を実行するためには、納期や予算などの制約がネックになり、全ての施策を実施できないことから、これらのトレードオフを調整する論述が求められております。本論文では、仕様変更や手戻りの防止による予算超過、進捗遅延を防ぐ論述になってしまっており、題意を誤って把握されていると感じました。3. 2節では、プロジェクトの評価観点としては、当初掲げた品質目標が達成できたのかどうかを必ず述べて頂く必要がありました。

5. 今後の学習に関するコメント

1. 2節で述べた品質目標が妥当ではなかったことから、論文全体も題意から外れてしまった印象を受けます。また、設問アで述べた品質目標が、設問イ、ウではあまり意識されておらず、品質目標と関連のない論述がされている印象を受けました。結果的には、問題の題意を適切に把握できていないことから、評価が低くなったと考えます。

今後は、題意をしっかりと把握され、ストーリーを事前に練っていただく学習をされるとよろしいかと思います。当方は、題意の把握とストーリーの構築で、7～8割は合否が決まると考えていますので、この点の学習が効果的かと考えます。

以上、添削結果のご確認の程よろしくごお願い申し上げます。
ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けますと幸いです。

以上

本文章の中で一番に述べたい結論である「POPシステムの開発プロジェクト」について、文章の一番初めに述べると読み手に理解しやすい文章になると考えます。論文全体としてはストーリーに沿って順を追って述べていきますが、1つ1つの文章はできるだけ結論⇒説明の順番に述べるとよろしいかと思ひます。

(例)

論述の対象となるプロジェクトは、流通業向けPOPシステム開発プロジェクトである。本プロジェクトは・・・

上記の例のようにプロジェクトを中心に論述をされるとよろしいかと思ひます。なお、POPシステムが何を示すのか1行程度の概要を述べたほうがよろしいと思ひます。用語としては Point of purchase、または Point of Production の意味があるので、読み手が混乱しない配慮をされると良いと思ひます。

発	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴
ト	向	け	計	量	器	や	ア	プ	リ
E	部	門	に	所	属	し	て	い	る
業	の	省	力	化	に	つ	な	が	る
応	を	行	っ	て	い	る			
の	今	か	ら	約	1	0	年	前	に

開	発	さ	れ	た	P	O	P	シ	ス	テ	ム	に	お	い	て	、	様	々	な	顧
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

もう少し具体的に混乱を招く理由について論述をして頂けると理解しやすいと考えます。理由としてはユーザインターフェースが変わるからでしょうか。または大きな変更によってデグレードが発生すると、利用者への影響が大きいからでしょうか。その点の追記をされると具体性が増す論文になると考えます。また、こうしたプロジェクトの特徴が、プロジェクト運営にどのような影響を与えるのかについても具体的に論述して頂けるとより具体的な論文になります。例えば、既存機能からの仕様変更を行わないように開発規模を大きくしない工夫が求められる、などのようにプロジェクト運営に与える影響を追記して頂きたいと思ひます。

\$	へ	の	対	応	を	行	う	た				
る	こ	と	と	な	っ	た	。	本				
記	の	4	点	が	挙	げ	ら	れ				
本	以	上	で	、	既	存	機	能	か	ら	の	大

この事実がプロジェクトにどのように影響を与えるのかを述べて頂きたいと思ひます。予算が少なすぎるのでしょうか？予算が多いのでいろんな試みができるのでしょうか？こうした事実がプロジェクトへ与える影響まで述べて頂きたいと思ひます。

き	な	仕	様	変	更	を	行	う	と	、	混	乱	を	招	く	可	能	性	が	あ	る
こ	と																				

「社内SEでの開発範囲」をどのように扱うのかが文章に記載されていなかったため、文章の意味をよく理解することができませんでした。また、こうした作業範囲を区切ることにより、プロジェクトに対してどのような影響が発生するのでしょうか？設計と製造を切り離すので、詳細な設計書の作成が必要になるので工数確保が必要になる、などの影響まで具体的に述べて頂きたいと思ひます。

ぐ	た	め	、	社	内	S	E	で	の	開	発	範
業	者	へ	の	請	負	契	約	を	行	う	こ	と
費	を	5	千	万	円	以	内	と	す	る	こ	と

④ . 新 O S 対 応 の た め 着 手 後 半 年 で 開 発 完 了

同様に、この事実がプロジェクトにどのように影響を与えるのかも含めて述べていただきたいと思います。特に影響はないのであれば、プロジェクトの概要として納期や工数などを簡潔に述べるだけでよろしいかと思います。

1 . 2 特 徴 を 踏 ま え

プロジェクト特徴の①と対比させている点は問題ないと思いますが、プロジェクト特徴①の論述が曖昧で、対比されていることが分りにくいと考えます。プロジェクト特徴①の論述を具体的に述べることで、特徴に応じた品質目標が設定できていることがわかります。また、品質特性における機能性に関する目標だと思いますので、そのことが分かるように記載をすとなお良いと思います。

私 は 、 本 開 発 プ ロ ジ
品 質 目 標 を 設 定 し た 。

記 の

① . 既 存 製 品 と 同 等 の 動 作 や 仕 様 が 1 0 0 % 網 羅 さ れ
て い る こ と

これはシステムの目的、またはシステムで保有すべき機能について述べているだけですから、品質目標とは関連がないので修正が必要だと考えます。

② . 流 通 業 で の 価 格 表 示 業 務 と 直 接 関 連 す る た め 、 代 替 手
段 を 講 じ て 店 舗 で の P

この目標はプロジェクトの特徴から導かれていることが読み取れませんでした。プロジェクトの特徴から自ずと導かれる目標の設定が必要です。

③ . 開 発 完 了 時 点 で 、 既 知 不 具 合 が 0 件 で あ る こ と

④ . 外 注 業 者 か ら の 成 果 物 受 入 基 準 を 明 確 に す る こ と

この目標は受入れ基準ということで調達管理などの領域の目標だと考えます。品質管理に特化した論文ですから、修正が必要と考えます。

ご参考までのコメントです。
いくつもの目標を述べると、それだけ論文内容が全体的に発散しやすくなります。発散するほどプロマネの考えの論述などを深く述べるのが難しくなり、箇条書きのような内容の薄い論文になり可能性が高くなります。場合によっては論文ではポイントを絞り、狭く深い論述をすることが必要になることがありますので、今後のご参考になさってください。

2	.	1	品	質	目	標	の	達	成	を	阻	害	す	る	要	因	と	判	断	の	根	拠						
			私	は	、	本	開	発	ア																			
			阻	害	す	る	要	因	と	し	て	洗	い	出														
			合	わ	せ	て	列	挙	す	る	。																	
			①	約	1	0	年	間	で	様	々	な	担	当	者	が	カ	ス	タ	マ	イ	ズ	対	応	し	て		
			る	こ	と	や	開	発	当	時	の	資	料	記	述	レ	ベ	ル	が	低	い							
			の	仕	様	理	解	が	浅	く	な	る	可	能	性	が	あ	る	。	判	断							
			て	、	納	品	済	み	顧	客	か	ら	の	問	合	せ	が	日	々	1	0	件	程	度	発	生	し	
			仕	様	確	認	や	仕	様	確	認	や	仕	様	確	認	や	仕	様	確	認	や	仕	様	確	認	や	仕
			②	P	O	P	シ	ス																				
			で	な	く	、	文	字																				
			な	ど	幅	広	い	開																				
			知	識	を	有	し	た	担	当	者	が	存	在	し	な	い	た	め	、	P	G	開	発	完	了	時	
			の	評	価	に	て	不	具	合	の	切	り	分	け	や	修	正										
			性	が	あ	る	。	判	断	し	た	根	拠	と	し	て	、	既	存	版	の	問	合	せ	時	の	発	
			生	源	や	原	因	特	定	作	業	時	に	担	当	者	間	で	も	め	事	が	生	じ	る	こ	と	

「を」の誤記です。

この問題がどのような品質目標を阻害すると考えたのでしょうか。その因果関係についても丁寧に論述する必要があります。

問合せ発生件数はシステムの保守性にはあまり関係はなく、問合せへの解決までの時間（TAT）などの指標だけを根拠として利用することが妥当だと考えます。

3つ指摘がございます。1つは、担当者は個別の業務知識や開発技術しか知らなくとも、システム全体を調整する担当者が幅広い業務知識を持っていれば対応できるようにも読み取れました。そのため、開発者全員が全ての開発知識や業務知識を持たなければならない理由が読み取りにくいと感じました。もうすこし具体的に、どのような開発知識業務知識が必要であったのかを述べることで、こうした疑問を解消できる論文になると思います。

2つ目は、ここに述べたような事実が、どの品質目標の達成をどのように阻害するのかの因果関係が論述されていない点です。3つ目は、1つの文章が長すぎるため読みにくいので、適度に区切るなどして読みやすくして頂きたいという点です。

「発生源」の意味がよく理解できませんでした。欠陥の発生原因という意味でしょうか。

が	あ	る	た	め	で	あ	る	。																
③	P	O	P	シ	ス	テ	ム	で	は	、	文	字	描	画	や	配	置	な	ど	様	々	な	専	門
知	識	が	必	要	と	な	る	た	め	、	経	験	を	有	す	る	外	注	業	者	で	し	か	開
発	対	応	し	辛	い	。	長	年	の	付	き	合	い	の	た	め	、	当	社	と	外	注	業	者
間	の	成	果	物	受	入	が	甘																
況	が	見	受	け	ら	れ	、	新	規	開	発	時	に	も	品	質	面	で	開	発	工	程	に	影
響	が	出	る	可	能	性	が	あ	る	。	判	断	し	た	理	由	と	し	て	、	直	近	で	実
施	し	た	開	発	に	お	い	て	、	P	G	品	質	面	の	影	響	に	よ	り	納	期	遅	延
し	た	事																						
2	.	2	品	質	目	標	達	成	阻	害	要	因	に	対	す	る	品	質	確	保	策			
私	は	、	本	開	発	に	お	け	る	品	質													
納	期	を	遵	守	す	る	た	め	、	下	記	の												
①	既	存	で	稼	働	し	て	い	る	シ	ス	テ												
に	理	解	す	る	た	め	、	開	発	部	門	で	有	す	る	資	料	だ	け	で	な	く	営	業
部	門	や	保	守	部	門	で	保	有	し	て	い	る	資	料	な	ど	を	調	達	・	受	領	出

開発工程について述べている時点で、品質管理の論文になっていないと考えます。品質管理に特化した論述を行う必要がございます。

実際の論文では1行空ける必要はございませんので、一般的な文章作成規則に則って頂いたほうがよろしいと思います。

問題原因への対策の有効性にやや疑問がございます。問題は、ドキュメント整備がされておらず必要な情報が残っていないということだと理解しております。他部門で保有する資料を集めることで、なぜドキュメントに不足している情報が収集できるかが、やや疑問です。ドキュメントが不足している状態なので、ドキュメントを集めても情報不足は解消できないように感じます。この点について解決できる根拠の論述が必要だと考えます。

来	る	よ	う	S	E	上	位	管	理	者	か	ら	関	連	部	署	長	を	通	じ	て	協	力	を
要	請	し	た	。	ま	た	、	仕	様	確	認	や	開	発	を	進	め	る	過	程	で	、	現	在
他	案	件	を	担	当	し	て	い	る	前	任	者	が	同	じ	課	室	に	出	来	る			
よ	う	調	整	す	る	こ	と	で	、	品	質	の	低	下	を	防	ぐ	た	り	ま	す	た		
よ	う	に	し	た	。																			
②	開	発	作	業	時	に	、	週	次	で														
各	担	当	者	の	開	発	知	識	や	業	務	知	識	の	レ	ベ	ル	が	異	な	っ	て	い	て
も	、	ミ	ー	テ	ィ	ン	グ	の	場	で	情	報	共	有	や	課	題	解	決	す	る	こ	と	で
開	発	時	点	で	の	品	質	の	作	り	込	み	に	つ	な	が	る	よ	う	ル	ー	ル	化	し
た	。																							
③	外	注	業	者	へ	の	開	発	委	託	に	お	い	て	、	不	具	合	が	発	生	し	が	ち
な	例	外	系	・	異	常	系	・	性	能	系	・	運	用	系	の	観	点	で	の	テ	ス	ト	仕
様	書	を	当	社	で	事	前	に	作	成	し	、	外	注	業	者	で	の	開	発	及	び	検	証
時	に	使	用	す	る	よ	う	依	頼	し	た	。												

対策内容が問題原因に対して有効である根拠がやや薄いと感じました。州次のミーティングを開催することで情報共有はできると思いますが、全ての担当者が同じ業務知識を得るにはきちんとしたトレーニングが必要だと考えられます。もし、ミーティングだけで業務知識を補える理由があるならば、その内容について論述を追記する必要があります。

また、こういった開発知識や業務知識が必要だったのかについてももう少し具体的な論述が必要だと考えます。

2.1節で進捗遅延に対する問題として取り上げており、妥当ではないことから、本節での論述も修正が必要だと考えます。

ル	が	低	い	も	の	の	、	仕	様	継	承	漏	れ	や	予	期	せ	ぬ	費	用	支	出	を	抑
制	す	る	こ	と	が	出	来	、	結	果	と	し	て	開	発	予	算	以	内	の	4	千	8	百
万	進捗面について述べており、本論文の題意として適切ではありません。										る	こ	と	が	「開発遅延」ではなく「進捗遅延」が妥当です。									
②	外	注	業	者	の	中	間	成	果	物	を	確	認	す	る	こ	と	で	、	2	度	の	開	発
遅	延	傾	向	が	確	認	さ	れ	た	も	の	の	、	開	発	に	必	要	と	な	る	仕	様	が
十	分	に	伝	え	き	れ	て	い	な	い	こ	と	に	起	因	し	て	い	た	た	め	、	外	注
業	者	と	の	集	中	的	な	打	合	せ	の	実	施	に	て	遅	延	を	回	復	す	る	こ	と
が	出	来	た	。																				
③	開	発	全	般	を	通	し	て	、	P	O	P	シ	ス	テ	ム	開	発	に	は	開	発	知	識
や	業	務	知	識	が	必	要	で	あ	っ	た	も	の	の	、	実	開	発	を	行	う	メ	ン	バ
一	の	メ	ン	バ	一	間	3.2 節全体に関する指摘ですが、プロジェクトを実行した結果として当初掲げた品質目標が達成されていることを中心に論述を行う必要があります。品質目標の達成状況について触れられていないことは重要な題意の欠落となってしまいます。										折	衝	や	コ	ミ	ュ	ニ	ケ
一	シ	ョ	ン	能	力	や																		
め	、	結	果	的	に	思																		
い	た	事	例	も	確	認	さ	れ	た	。	そ	れ	ら	の	行	為	は	品	質	低	下	の	要	因
に	な	る	だ	け	で	な	く	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	失	敗	へ	の	引	き	金	と	な	り
う	る	可	能	性	も	あ	る	た	め	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	振	り	返	り	ミ	ー	テ

イ	ン	グ	に	お	い	て	、	開	発	メ	ン	バ	ー	に	対	し	て	よ	い	気	付	き	を	与	
え	、	ま	た	よ	い	経	験	に	つ	な	が	っ	た	と	考	え	て	い	る	。					

— 以 上 —